

徳島大学に乾杯

大学一丸となつてのあらゆる分野での活躍と躍進を望む

徳島大学
医学部医学科10期生
徳島県立看護専門学校長

藤原 靖

ふじ わら やす



がんばれ徳大

徳島大学は戦後間もない、昭和24年に学芸学部、医学部、工学部の三学部をもって発足しました。日本がまだ結核感染症の脅威に怯えていた頃でした。

昭和28年、徳島大学第二代学長児玉桂三先生は、当時は四国で唯一の医学部を持つ当大学の蔵本キャンパスを「四国のメディカルセンターとする」という目標を持って赴任されたと聞いています。その目標の実現にむけて、当時女子大学の家政学科等と併設されていた栄養学科を、全国初の医学部栄養学科として開設されました。後にその卒業生が国立栄養研究所や、厚生省の栄養課で活躍することになります。

彼らの大きな足跡として「健康づくり対策事業」の展開があります。この事業は、従来国、県、市町村と縦に並び行政の枠組みを大胆に変え、市町村が主体的に独自の事業を展開すると言つ物です。ターゲットが、現在の市町村の最大の負担になっている生活習慣病であるということとを鑑みれば当然の事として受け止めら



徳島大学 第二代学長
児玉 桂三 先生

れるのですが…。今小泉内閣が懸命に取り組む行政改革を保健衛生部門で25年も早く企画実行したのです。また、その業績が、昨年成立した「健康増進法」の基礎にもなっている事に鑑みれば、高く評価されるべきものであると考えています。

話をもどして、徳島大学においては、昭和51年に蔵本キャンパスに歯学部が設置され、児玉学長のメディカルセンター構想は完成されたと理解しています。

現在の行政改革がすすめば、市町村における、地域看護、地域介護の本格的な展開が求められます。これまでも、医療に貢献し、介護にも取り込まれつつあるハイテク技術の開発もゆるがせには出来ません。徳島大学としては、蔵本キャンパスだけでなく、常三島キャンパスのより多くの活躍も期待されることです。国立大学法人化が決定されたなか、徳島大学においては、両キャンパス共同で、大学改革に取り組み、大学院大学として、大きく飛躍しようとしています。今後とも大学教職員一丸

となつて、研究に、教育に尽力して、世界に通用する多くの業績をつみ、地域生活者に頼られ、誇りとされる、大学として躍進するよつに期待しています。

ところで、ノーベル賞候補者何人です。二十一世紀になり、物憂きこと多き今日この頃です、朗報首を長くして待っています。

